

教科「産業」の構築とキャリア教育

研究部主任 小澤 信治

最近のキャリア教育の動きについて触れるとともに、本校の研究開発教科「産業」のねらいについて分析考察した。結論として「問題発見能力」育成が、キャリア教育上、適切に位置付けられるべき重要な能力であることを提言した。

キーワード：キャリア教育 職業観・勤労観 教科「産業」 問題発見能力

1. キャリア教育をめぐる動き

キャリア教育ということばが文科省関係の文書に初めてあらわれるのは中央教育審議会答申（平成11年12月）「初中等教育と高等教育との接続の改善について」、いわゆる接続答申においてである。後期中等教育の増大、高等教育の増大の中で、後期中等教育と多様化した高等教育との間の円滑な「接続」が問題となる。すなわち後期中等教育における履修教科、科目の多様化と、進学率の上昇によって、多様な能力、適性、意欲、関心を持った生徒が進学するようになり、このような状況の中で、主体的な進路選択を保証するためには、教育上、次のような配慮が必要となった。一つは、自分の将来の進路、職業を長期的に展望した上で、自己の能力、適性、関心を最大限生かすようにすること。もう一つは、学校教育と職業生活の円滑な接続を図るために、望ましい職業観、勤労観、および職業に関する知識や技能を身につけさせ、また自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力、態度を育てる教育（キャリア教育）を発達段階に応じて実施することである。初中等教育で育成すべき資質、能力としては、「自己の生き方を主体的に考え、進路を選択する態度を育て、勤労を尊ぶ精神を身につけさせ、さらに進路に応じて職業生活に必要な知識、技能を習得して、生涯にわたり、その向上に努める態度を育てること。」とある。高等学校にあっては「生徒が自らの在り方生き方を深く考え、将来の進路を選択し、決定する能力を身に付けさせるとともに、各自の興味・関心・能力・適性・進路等に応じて選択した分野の学習を深める。」ことが教育目標として述べられている。キャリア教育は「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」また「望ましい職業観、勤労観及び職業に関する

知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力、態度を育てる教育」として、小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある、と述べられている。さらに家庭、地域との連携、体験的な学習を重視することが求められている。

また国立教育政策研究所生徒指導研究センターの「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」では、児童生徒の意識調査結果を踏まえて「情報化が進む激しい時代の変化の中で、子どもたちは、自己実現や「やりたいこと」、職業・職種等へのこだわりを強めてはいるものの、自己の能力・適性及び職業の実際などについて不十分にしか把握できない状況に置かれている実態」を指摘している。この報告書では、「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」が示され、以後、いくつものキャリア教育関連の報告書や論考に「枠組み」として参照されている。この枠組みでは、人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意志決定能力の4つの領域が示されている。

さらに平成16年1月には、キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書が出され、これによると、キャリアの概念は「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」であるとの考えに基づき、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲、態度や能力を育てる教育」がキャリア教育であるとしている。なお平成15年4月には時代の社会ならびに経済状況から、文科省、厚労省、経産省などにより「若者自立、挑戦戦略会議」が発足し、同年6月には「若者自立、挑戦プラン」（キャリア教育総合

計画)の推進が図られることになった。さらに文科省の委託を受けて産業教育振興中央会が「高等学校における『日本版デュアルシステム』の推進に向けて一実務と教育が連結した新しい人材育成システム推進のための政策提言」を平成16年2月にまとめている。

学校教育と社会の結びつきが希薄であったことへの反省を踏まえ、小中高のキャリア教育を進める課題の下に、職業や仕事の体験活動を取り入れ、職業観、勤労観を生徒に培い、働くことに対する関心や意欲の高揚ならびに学習意欲の向上が求められるようになった。これらの動きは手短かに言えば、学校と社会、教育と職業、知識と労働、を結びつけることを目指していると言える。

普通科におけるキャリア教育

キャリア教育は職業教育であるといった誤解があるが、そのような狭い範囲の内容を指すものではない。平成18年11月には、高等学校におけるキャリア教育の推進に関する調査研究協力者会議報告書～普通科におけるキャリア教育の推進～が出され、専門学科、総合学科にとどまらず、キャリア教育の推進・充実が謳われている。この報告書では以下15の提言が載っている。()内は提言の主な対象

提言1 (学校)

○学校教育目標にキャリア教育の推進を位置づけること

提言2 (学校)

○組織的、体系的なキャリア教育の指導計画の作成

提言3 (国)

○キャリア教育の位置付けの明確化に向けての検討

提言4 (国・教育委員会・学校)

○キャリア教育の適切な評価及び生徒の評価方法の検討

提言5 (学校)

○キャリア教育を推進するための校内体制作りと外部との連携組織

提言6 (国・教育委員会・学校)

○すべての教職員を対象としたキャリア教育研修の充実

提言7 (国・教育委員会)

○キャリア教育を推進するための中核となる教職員等の養成と配置

提言8 (教育委員会・学校)

○小・中・高・大の学校間、校種間の連携・協力

提言9 (教育委員会・学校・地域や企業)

○教育委員会、産業界、関係機関等に連携窓口の設置を図る

提言10 (国・教育委員会・学校・地域や企業)

○社会人講師等、外部人材の積極的活用

提言11 (国・教育委員会・学校・地域や企業)

○インターンシップ等の推進のための協議会等の設置

提言12 (国・教育委員会・学校・地域や企業)

○インターンシップ等多様な体験の機会の充実

提言13 (国・教育委員会)

○初等中等教育におけるキャリア教育の効果の評価

提言14 (国・教育委員会・学校・PTA)

○キャリア教育を推進するための資料作成等

提言15 (国・教育委員会・学校)

○高等学校卒業後の支援

なお、総合学科においては「産業社会と人間」という原則履修科目が設定されており、この科目が大きくキャリア教育と結びついているわけであるが、この報告書では、この科目または準じた科目を普通科においても設定することを推奨している。

キャリア教育推進の手引き

小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引き—児童一人一人の勤労観・職業観を育てるために—(平成18年11月)では、学校教育に求められている課題として大きく「生きる力」の育成を掲げ、その構成要素として、確かな学力・豊かな人間性・健康体力をあげている。

また社会人・職業人として自立した社会の形成者の育成の観点からは

学校の学習と社会とを関連付けた教育

生涯にわたって学び続ける意欲

社会人・職業人としての基礎的な資質・能力

自然体験、社会体験等の充実

発達に応じた指導の継続性

家庭・地域と連携した教育

が必要であるとしている。

キャリアは個人と働くこと、この両者の関係の上で成立する概念であり、社会認識と自己認識を結合させて自己を方向付けることが必要で、こうすることがキャリア発達につながる。

位置づけとしては、学校の教育活動全体、すなわち各教科・科目(普通教育、職業教育を含む専門教育)、特別活動、総合的な学習の時間、の中でキャリア教育の展

開を意図すべきものとしている。

また各学校においてはキャリア教育推進のための計画を立てることが求められ、さらに、その際、それぞれの活動がどのような能力の育成を目指しているかを明確にしたり、バランスのとれた取り組みとなっているか、どうかを点検見直しする際に、上掲の「枠組み」を活用できると述べられている。

2. 教科「産業」について

本校は平成6年度に全国にさきがけて総合学科を開設した7校の一つであり、筑波大学が国立大学法人になるにあたり作成された中期計画には「総合学科高等学校の研究校としてキャリア教育を実験的に実践」する附属学校として位置づけられた。

総合学科の教育は学校教育と社会、職業と積極的に結びつける教育であり、生徒自らが自分の進路をしっかりと見据えた上で、科目選択を行う。生徒にしっかりとした、勤労観・職業観を確立させるとともに、自らのキャリア形成をどのように行っていくかについて、徹底した指導を行っていくことが基本的な要請となる。

本校は「文部省指定：平成10～11年度高等学校教育多様化実践研究協力校」「文部省指定：平成12～14年度研究開発学校」「文部科学省指定：平成15～17年度研究開発学校」としてこの課題に取り組んできた。平成12年度に始まる研究開発では科目「産業理解」の開発、また平成15年度に始まる研究開発では科目「起業基礎」の開発にあたり、これら2科目は「産業社会と人間」とともに教科「産業」の構成科目として、キャリア教育の推進力になるものと考えた。

ここに教科「産業」を構成する3つの科目について主な目標を書く。

「産業社会と人間」（1年次履修）

産業構造や社会の仕組みについて体験的に学ぶとともに、自分を見つめ、将来の進路・生き方を考えた上で科目選択を行う。

「産業理解」（1年次履修）

産業を、しくみ、あゆみ、環境、国際、生活、福祉、情報、消費などのそれぞれの側面から捉え、総合的に関係させながら理解するとともに、産業社会と自分との関連性についてより深く考察する。「産業社会と人間」への補完的な機能を持つものとする。

「起業基礎」（2年次履修）

産業構造、就業構造の変化の中にあって、自ら課題

や問題を発見し、その解決法について考えるとともに、社会益を意図した、ものやサービスの提供を考案するという活動を通してアントレプレナーシップを培う。

「産業理解」の開発

総合学科の原則履修科目である「産業社会と人間」とともに一年次が履修する科目として「産業理解」を開発したのは、生徒が幅広く産業活動を多面的にまた歴史的に理解することで視野を広げることができるように意図したものであり、教養科目的な位置づけとした。「産業社会と人間」で生徒は、進路選択・時間割作成を課題とし、産業社会について、また自分について学び理解を深めることが求められる。一方、私たちは「産業」の中に置かれ、生きているわけであるが、私たちは、そのことを特に意識することもなく過ごしている。その「産業」を意識の俎上にあげて、あらためて時間・空間的に学ぶ捉え直すことによって、今私たちが享受している生活、生き方というものを新たなパースペクティブから見る力の育成を「産業理解」に求めたと言える。

「起業基礎」の開発

「産業」を動かしていくことは、ただ既存の知識・技術を継承していくことに止まるものではないことは言うまでもない。その発展には新たな発見や技術の創出があったわけであるし、また起業があったわけである。事業を起こす活動を、疑似体験として学習に取り入れることで、「働くこと」「生きること」「学ぶこと」に、能動的・主体的・創造的に、関わる心的な態度を培いたいと考えた。生徒が問題意識を持ち、問題発見を行い、それから問題解決につなげ、さらにその解決を社会、市場に展開する可能性を持つことを学ぶことは、キャリア教育の観点からも価値があると思われる。

本校では、教科「産業」として、1年次に「産業社会と人間」「産業理解」、2年次に「起業基礎」を開設している。普通・専門教科科目、特別活動、総合的な学習の時間、とともに、その培った力を活用し、3年次科目「卒業研究」に取り組む流れとなっている。

各科目の年間計画

実施年次毎に、実施形態は異なる部分もあり、18年度実施の各科目の年間計画はそれぞれの科目の該当資料を参照されたい。

「産業理解」については、体験的な学習の事前事後の指導を充実させ、その持つ意味を深めて習得させたいという意向、また総花的な扱いで生徒の理解が深まらない

まま、次の単元に移っていく、との既年度から出ていた反省点を踏まえて、従来あった単元の数がなくなり、本年度の「産業理解」の取扱は開発時の内容と大きく異なったものになっている。

「起業基礎」については、昨年度は前半部分を本校の文化祭「黎明祭」を使ってプレ起業活動をさせる取り組みを行っていたが、後半の取り組みに十分時間をあてたいという趣旨で、今年度は実施しなかった。また育成したい力として、7つを設定しているが、その中で「チャレンジ精神」を「実行力」、「マーケティング力」を「情報力」、と表現してより幅のある表現に改めた。

3. 「枠組み」からの分析結果

さて「産業社会と人間」「産業理解」「起業基礎」の目標ねらいに、「枠組み」（資料参照）に示された下記4つの能力領域を配してみた。

職業的（進路）発達にかかわる諸能力（「枠組み」より）

領域	領域説明	能力説明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【他者の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力 【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力 【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力 【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力
意志決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力 【課題解決能力】 意志決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に対応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力

「産業社会と人間・産業理解」（年間計画参照）の分析結果

主題・目標	授業での主な活動内容	関連する能力
新しい出会いを楽しむ	コミュニケーションキャンプ	人間関係形成能力
自己を見つめる	自分史作成・自己理解テスト	人間関係形成能力
系列を知る	系列ガイダンス	情報活用能力
働くひとを知る	職場体験事前指導・社会人講話・出前講義	情報活用能力 意志決定能力
社会を知る	職場体験・オープンキャンパス・企業見学	情報活用能力 将来設計能力
他者を知って自己理解する①	福祉体験	人間関係形成能力 情報活用能力
大学を知る	筑波大学見学	情報活用能力
2,3年次の学びについて考える	系列授業見学・時間割作成	情報活用能力 将来設計能力 意志決定能力
他者を知って自己理解する②	特殊附属学校との交流会	人間関係形成能力 情報活用能力
学んだことを伝える	4月から学んだことをまとめて発表する	人間関係形成能力 情報活用能力
産業を理解する	「環境と産業」について学ぶ	情報活用能力

「起業基礎」（年間計画参照）の分析結果

7つの力	授業での関連する活動内容	関連する能力
アイデア力	アイデアを見つけ練る	情報活用能力
企画立案力	企画書作成	情報活用能力 将来設計能力 意志決定能力
実行力	起業活動	将来設計能力 意志決定能力
情報力	ガイダンス アイデアを見つけ練る	情報活用能力
チームワーク力	企画書作成 ポスターによるプレゼンテーション 求人活動 ポスターによる活動報告 事業報告書作成	人間関係設定能力 将来設計能力
プレゼンテーション力	ポスターによるプレゼンテーション 求人活動 ポスターによる活動報告 企画書審査 ヒアリング	人間関係設定能力 情報活用能力

起業基礎では育成しようとする力をあらかじめ7つ立てた。問題発見力、アイデア力、企画立案力、実行力、情報力、チームワーク力、プレゼンテーション力、の7つである。活動は、ガイダンス・アイデアを見つけ練る・企画書作成・ポスターによるプレゼンテーション求人活動・企画書審査・起業活動・事業報告書作成・ポスターによる活動報告・ヒアリング（振り返り）に分類される。

4. キャリア教育への視点

これら能力領域を当てはめるのは、そう簡単ではなく、どの能力が関連するか、結構悩ましいところがあった、というのが実感である。育成を目指す4能力のバランスのあることが望まれているわけであるが、1,2年を通して見ると、欠けている能力はないと言えそうである。ただ逆にこの作業の中で、特に起業基礎で立てた7つの力の中の「アイデア力」を、4つの能力だけに配することは無理があると判断せざるを得なかった。表中に？マークを付けているのはそのためである。この「アイデア力」の指導に当たっては、身の回りの不便さ、問題点、などを気づかせ、社会益につながる観点でその解決となる、ものやサービスを考えさせようと指導した。このステップは、難しい課題であった。指導する教師にもまた生徒にとっても、難しかった。これは問題発見能力に関連する。課題解決能力は能力説明に書かれているが、この能力は「枠組み」には明示されていない。

私たちが、今後のキャリア教育を捉えていく上で、問題発見能力に注目する必要があるだろう。すなわち、キャリア教育が、学校と社会を結ぶ、との観点で、作られてきているわけであるが、「枠組み」を再度見直すと、現実の社会の有り様を学校に、教育に受け入れるというベクトルが読み取れる。教育が社会と乖離した状況を改

善しようとした施策であるから、それは当然ではある。

ただ、一方で、社会に対して、このようにあるべきとか、このような問題点があるのではないか、それを何らかの形で解決できないか、という視点が弱いように思われるのである。その意味で、現状では、必ずしも成功しているとは言えない「起業基礎」ではあるが、そのねらいは、意味ある取り組みになり得るのではないか。問題発見能力を取り上げ培っていく学習プログラムの開発が望まれる。

起業は、利益追求のため、事業を起こすことと一般的に解釈されるわけであるが、学習活動としての本校の取り組みでは、社会のニーズを見つけ、それをもの・サービスを考案する、という課題に取り組む中で、より普遍的な価値をもつ問題発見・解決能力の育成につなげたいという願いがある。

「若者自立・挑戦プラン」が策定され、また経済産業省による起業家教育支援事業などが展開された背景には、産業・経済の構造的な変化、雇用の多様化、流動化、バブル崩壊後の若者の雇用・就業状況からの危機意識、会社の倒産と失業、低い起業意識といったものが指摘されてきた。

キャリア教育を、このような時代状況が生み出した一過性のブームとしてはならないことは、言うまでもない

だろう。キャリア教育は、今ある社会の中で生きていく力を育てる、あるいは社会に適合するよう教育することを志向するに止まるものではなく、よりよい社会を作っていく力を生徒の中に育てていくことも大切である。問題発見能力の育成はその意味でも価値のあるものと考え

藤田(2006)は、今行われているキャリア教育のあり方に関して次のように述べている。

「キャリア教育は、既存の社会的なルールと慣行を次の世代に伝えるという重要な機能を有する。しかし同時に、現存する社会のゆがみや悪弊をただす力を育成することもまたキャリア教育の重要な課題である。」

この問題発見能力の「問題」という表現には、私たちはともすると批判的あるいはあら探しのニュアンスさえ感じてしまうが、批判能力を育てるという意味ではない。キャリア教育上の観点から見て決して言語操作の領域に留めるものではなく、現実の社会に向っての創造的な意図を持ち、責任を果たす主体として自己が行う「問題発見」とする必要がある。

【引用文献】

藤田晃之(2006)「新しい時代に対応したキャリア教育論を求めて」月刊ホームルーム7月号(学事出版)

3 職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例) - 職業的(進路)発達にかかわる諸能力の育成の視点から

* 太字は、「職業観・勤労観の育成」との関係が特に強いものを示す

		小 学 校			中 学 校		高 等 学 校
職業的(進路)発達段階		進路の探索・選択にかかわる基礎形成の時期			現実的探索と暫定的選択の時期		現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
○職業的(進路)発達課題(小・高等学校段階) 各発達段階において達成しておくべき課題を、 進路・職業の選択能力及び将来の職業人として 必要な資質の形成という側面から捉えたもの。		<ul style="list-style-type: none"> 自己及び他者への積極的関心の形成・発展 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 夢や希望、憧れの自己イメージの獲得 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 			<ul style="list-style-type: none"> 肯定的自己理解と自己有用感の獲得 興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成 進路計画の立案と暫定的選択 生き方や進路に関する現実的探索 		<ul style="list-style-type: none"> 自己理解の深化と自己受容 選択基準としての職業観・勤労観の確立 将来設計の立案と社会的移行の準備 進路の現実的試行と試行の増加
職業的(進路)発達にかかわる諸能力		職業的(進路)発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度					
領域	領域説明	能力説明					
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【 自己理解能力 】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	・自分の好きなことや嫌いなことをはっきり言う。 ・友達と仲良く遊び、助け合う。 ・お世話になった人などに感謝し親切にする。	・自分のよいところを見つける。 ・友達のよいところを認め、励まし合う。 ・自分の生活を支えている人に感謝する。	・自分の長所や欠点に気付く。自分らしさを発揮する。 ・話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。	・自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重する。 ・自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる。 ・自分の悩みを話せる人を持つ。	・自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。 ・他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。 ・互いに支え合い分かり合える友人を得る。
		【 コミュニケーション能力 】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションが豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	・あいさつや返事をする。 ・「ありがとう」や「ごめんなさい」を言う。 ・自分の考えをみんなの前で話す。	・自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。 ・友達の気持ちや考えを理解しようとする。 ・友達と協力して、学習や活動に取り組む。	・思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする。 ・異年齢集団の活動に参画し、役割と責任を果たそうとする。	・他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。 ・人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。 ・リーダーとフォロワーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をこなす。 ・新しい環境や人間関係に適応する。	・自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する。 ・異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。 ・リーダー・フォロワーシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める。 ・新しい環境や人間関係を生かす。
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様な性質を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方を生かす。	【 情報収集・探索能力 】 進路や職業に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	・身近で働く人々の様子や関心、興味・関心を持つ。	・いろいろな職業や生き方があることが分かる。 ・分岐点や関わり、関係などから、質問したりする。	・身近な産業・職業の様子やその変化が分かる。 ・自分に必要な情報を探す。 ・気付いたこと、分かったことや個人・グループでまとめたことを発表する。	・産業・経済等の変化に伴う職業や仕事の変化のあり方を理解する。 ・上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習面の理解が分かる。 ・生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。 ・必要に応じて、獲得した情報に創意工夫を加え、提示、発表、発信する。	・卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。 ・就職後の学習の機会や上級学校卒業時の就職等に関する情報を探索する。 ・職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる。 ・調べたことなどを自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する。
		【 職業理解能力 】 様々な体験を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力	・係や当番の活動に取り組む、それらの大切さが分かる。	・係や当番活動に積極的に参加する。 ・働くことの楽しさが分かる。	・施設・職場見学等を通して、働くことの大切さや苦勞などが分かる。 ・学んだり体験したりしたことと、生活や職業との関連を考える。	・将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。 ・体験を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。 ・係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択に生かす。	・就業等の社会参加や上級学校での学習等に関する探学的・試行的な体験に取り組む。 ・社会経験やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。 ・多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方を考え、社会生活を準備しながら自己の将来を設計する。	【 役割把握・認識能力 】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	・家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。	・互いの役割や役割分担の必要性が分かる。 ・日常生活や学習と将来の生き方との関係が気付く。	・社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。 ・仕事における役割の関連性や変化に気付く。	・自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる。 ・日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。 ・様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。	・学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。 ・ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。 ・将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。
		【 計画実行能力 】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを果たするための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	・作業の準備や片づけをする。 ・決められた時間やきまりを守ろうとする。	・将来の夢や希望を持つ。 ・計画づくりの必要性に気付く。作業の手順が分かる。 ・学習等の計画を立てる。	・将来のことを考える大切さが分かる。 ・憧れとする職業を持ち、しなければならぬことを考える。	・将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。 ・進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する。 ・将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。	・生きがい・やりがいがあり自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。 ・職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。 ・将来設計、進路計画の見直し再検討を行い、その実現に取り組む。
意思決定能力	自らの意志と責任を以て、責任を負って、自己の意思を主張し、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	【 選択能力 】 様々な選択肢について比較検討したり、高層を批判したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	・自分の好きなもの、大切なものを持つ。 ・学校でよいことと悪いことがあることが分かる。	・自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。 ・してはいけないことが分かり、自制する。	・係活動などで自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ。 ・教師や保護者に自分の悩みや葛藤を話す。	・自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。 ・選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことなどを理解する。 ・教師や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる。	・選択の基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観を持つ。 ・多様な選択肢の中から、自己の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する。 ・進路希望を現実するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する。 ・選択結果を要諦し、決定に伴う責任を果たす。
		【 課題解決能力 】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に責任を感じ、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	・自分のことは自分で行おうとする。	・自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。 ・自分の力で課題を解決しようとする。	・生活や学習上の課題を見つけ、自分の力で解決しようとする。 ・将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。	・学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面を生かす。 ・よりよい生活や学習、進路や生き方等を目標として自ら課題を見出し、いくことの大切さを理解する。 ・課題に積極的に取り組み、主体的に解決していくこととする。	・将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む。 ・自分を生かす役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する。 ・理想と現実との葛藤経験等を通して、様々な困難を克服するスキルを身につける。